

幼 兒 の 教 育

昭 和 八 年 二 月

早 春

掃き清めて、その一日を待ち受けてゐる幼稚園へ、まづ最初の子がにこ／＼とやつて来る。

梅一輪々々づゝの暖かさ

ふこ、こんな古句も思ひ出される。一人来て、二人来て、だん／＼と春めいてくる幼稚園の朝である。

ふらり／＼と、あまから来た子、さきに来て遊んでゐる子らの、あの群、この群へ誘はれて、思ひ／＼のまころに、思ひ／＼の春を見つけてゐる。

梅をちこち南すべく北すべく

又こんな古句も思ひ出される。二つの群が出来、三つの群が出来、だん／＼と春ざわめいて来る幼稚園の朝である。

それにしても、まこから来る此の春の匂ひであらう。